

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：高松 諭

事業名	地域高規格道路 北条湯原道路 一般国道313号 倉吉関金道路	事業区分	一般国道	事業主体	鳥取県
起終点	自：鳥取県倉吉市関金町大鳥居 至：鳥取県倉吉市小鴨	延長	7.0km		
事業概要					
北条湯原道路は鳥取県北栄町から岡山県真庭市へ至る延長5.0kmの地域高規格道路である。倉吉関金道路は北条湯原道路の一部を構成し、線形不良区間、事故多発区間の解消、円滑な交通の確保により地域間の交流連携強化を図る目的とした延長7.0kmの2車線バイパスである。					
H23年度事業化	H23年度都市計画決定	H26年度用地着手	H26年度工事着手		
全体事業費	約252億円	事業進捗率	約69%	供用済延長	— km
計画交通量	7,400~9,800台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 3.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 76/239億円 事業費：72/236億円 維持管理費：3.7/3.7億円 更新費：0.0/0.0億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 266/266億円 走行時間短縮便益：232/232億円 走行経費減少便益：26/26億円 交通事故減少便益：7.6/7.6億円	基準年 令和5年	
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量：B/C=0.97~1.3 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=3.1~4.0 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.1~1.1 (事業費±10%) 事業費：B/C=3.2~3.9 (事業費±10%) 事業期間：B/C=0.97~1.3 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=3.1~4.0 (事業期間±20%)					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・中国横断自動車道岡山米子線及び中国縦貫自動車道、山陰自動車道と一体となった広域的な高速道路ネットワークを形成。 ・鳥取県中部地方生活圏と岡山県真庭地方生活圏との連携と地域活性化に寄与。 ・観光地までのアクセス性向上や関西方面や島根県方面からの観光客数増加を促進。 ・西倉吉工業団地やその他の工業団地へ進出工場が増加しており、工業団地の拡張計画と合わせ、企業誘致、企業活動を支援。 ・交通渋滞の緩和により損失時間が削減され、CO2排出量の削減が見込まれる。 ・緊急輸送道路としての機能を強化するとともに緊急車両到達時間を短縮し、要救護者の救命率向上に寄与。 					
関係する地方公共団体等の意見					
・北条湯原道路の整備促進について、鳥取・岡山・広島 の3県で構成される「国道313号整備促進期成会」、倉吉市・真庭市・北栄町で構成される「一般国道313号地域高規格道路整備促進協議会」等から要望を受けている。					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続が妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
<ul style="list-style-type: none"> ・山陰自動車道の一部を構成する北条道路（国交省：L=13.5km）が平成29年度に新規事業化。 ・北条道路に接続する北条湯原道路（延伸）（北条JCT(仮称)：L=0.4km）が平成29年度に新規事業化。 					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
<ul style="list-style-type: none"> ・用地進捗率43%、事業進捗率69% ・倉吉市福山～小鴨（倉吉南IC～倉吉小鴨IC：L=3.0km）をI期区間とし優先的に事業中であり、令和7年3月開通予定。 ・倉吉市関金町大鳥居～倉吉市福山（大鳥居～倉吉南IC：L=4.0km）をII期区間とする。 					

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

現在はⅠ期区間の工事を推進しており、Ⅰ期区間については倉吉道路の倉吉小鴨IC～倉吉南IC間（L=0.8 km）と一括して令和7年3月開通予定。

施設の構造や工法の変更等

今後も新技術の採用や工法の見直しによる工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。

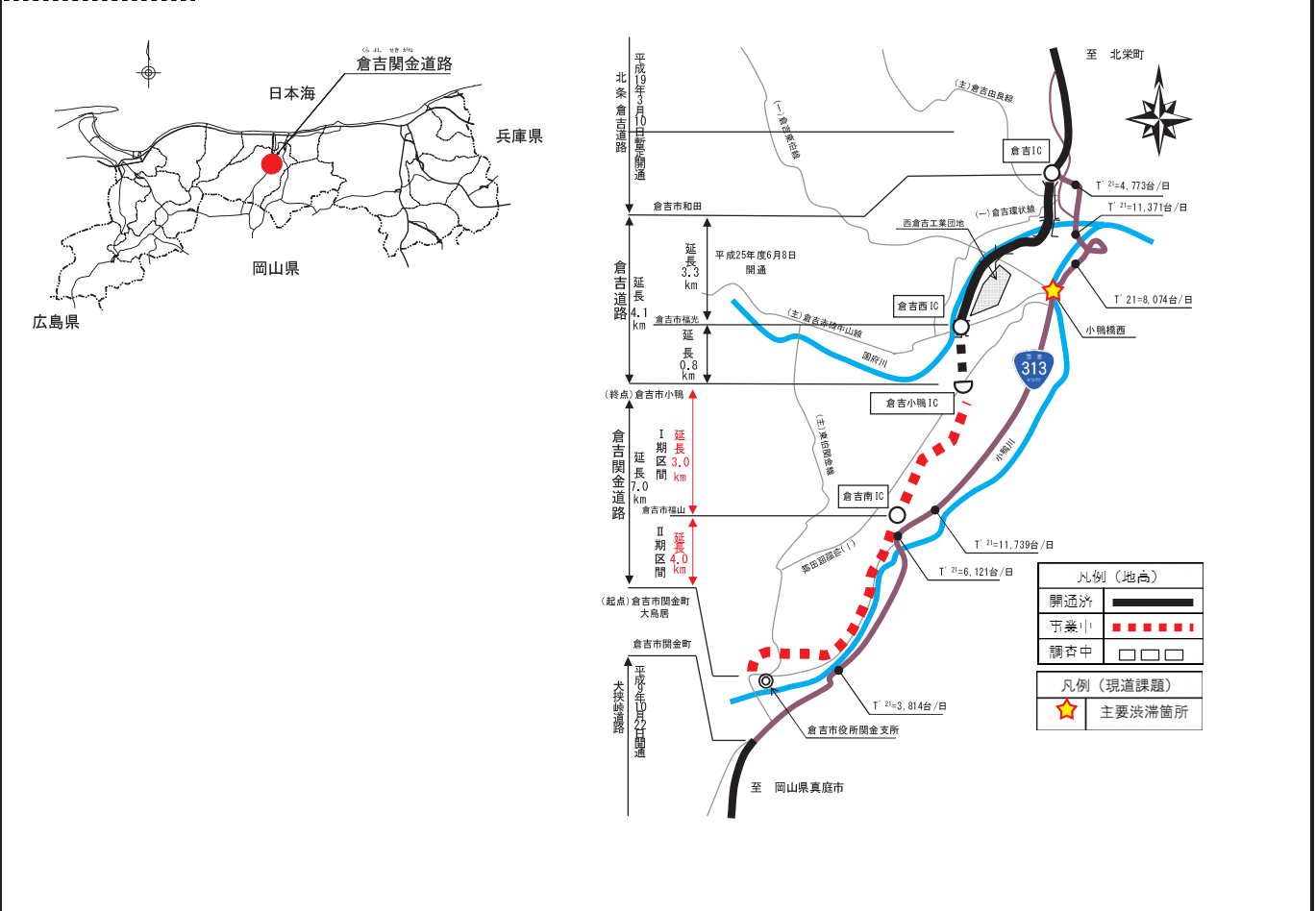
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。